

特集

まちづくりNPO対談

元気の出るまちづくり!

イベントにかける思い ～成功への歩み～

- ちょっと気になる、いしかわのNPO
NPO法人 基盤地図情報活用研究会

シリーズ

NPO会議術③

『意見を言いやすくする工夫』

- いしかわのNPO

ココプロジェクト

子育てサークル にいはお

- ジュニア VOICE

ミックスジュース100%

- 書籍紹介コーナー

- インフォメーション

・県からのお知らせ

・助成金ニュース



つながる、
ひろがる、
ふれあう。

イベントにかける思い ～成功への歩み～



今回は「里山の環境保全」を目的として取り組んでこられた『おとぎの杜』理事長の出口威さんと「南加賀の伝統や芸能、文化の魅力発信」を目的とし活動してこられ

た『加賀白山おったから塾』理事長の田中和義さんにそれぞれの活動を通して、地域住民の方々とのコミュニケーションや地域活性化などについて対談していただきました。

始めてから経験を積み重ねて

●田中 「加賀白山おったから塾」の活動は4年前からで、平成20年10月にNPO法人となりました。山代・山中・粟津・片山津の四温泉が一同に集まり、四温泉を一つのブランドとして全国にPRしようと始めました。南加賀地域に眠る沢山のお宝(おったから)、人・芸能・食などを掘り起こして、沢山の方に見ていただきたいという願いを団体名に込めています。祭りの名前は知っていても行ったことはない方って結構いらっしゃると思うんですよ。そういう方々にこんな伝統芸能があるんやってことを、見て知っていただくという思いで、4年間純粋にこの地域にあるお宝

を掘り起こして“おったからまつり”をやってきました。今では多くの人が応援してくれています。「四温泉を盛り上げていこう!」という機運の高まりを実感しますね。

●出口 「おとぎの杜」は、まず4ヶ月任意団体で活動し、NPO法人になってから4年です。創業支援講座でNPOの話聞いて、当時里山の竹の繁茂と熊の出没の問題がありましたので、講座仲間で「この指とまれ!」で、11人の任意団体から出発しました。竹林を持っていた会員がいて、知人からドラム缶製の炭焼き窯をもらえたので、竹林を整備して竹炭を焼くことにしたのが始まりです。

一般に里山という山の斜面のところだけをいうので

すが、次第に里山の“ふもとの田んぼや畑も一体のものとして考えようではないか”となり、ふもとに花壇を作り、野菜を栽培し、ビオトープ造成もしました。

そこでエコを意識するようになり、「自然に優しく、人にも優しく、平和の種をまこう」をキーワードに、自然環境保全の活動をされている方々にも声を掛けて、「笑顔でエコ・どんどこドン!」のイベントを、今までに6回開催しました。

自分たちに出来ることは限られていますが、小さい集団でも活動を通じて仲間が広がる。すると、それぞれの人の周りに、またもう一つ大きな形で繋がりができる。その結果として、今までなかった知恵とか発想とかが加わって、展開できることを実感しています。



▲おとぎの杜収穫祭

出会う人々と分かち合う心

●田中 僕らは祭りの当日に食の祭典をやります。家々によって材料や作り方が違う柿の葉寿司や昔おばあちゃんが作ってくれた料理など、“自分たちが日常家で作っているもの”に限定して「『自分たちのところには昔から伝わるこういう食があるんですよ、だから皆さん見て下さい、味わって下さい』という思いで出店してください」と声をかけます。おばあちゃん達はかきもちとか準備してくれますし、獅子舞の人達もその日のために一生懸命練習してくれるんですよ。

“おったから祭り”は南加賀にある伝統芸能と食にこだわって、地域にある「お宝」を守っていききたい。物質的に豊かになった世の中でも、故郷を大事に思うとき、僕は一番最初に思い出すのは祭りやと思うんです。各町に受け継がれるものをこの祭りで発表

し、皆さんに知っていただきたい。次の世代にも伝えていきたいんです。

今はどこでも祭りは縮小傾向で、守っていくには沢山の人が手伝ってもらわんといかんのですが、祭りのネットワークが広がれば、たとえ衰退していく祭りを盛り上げる力まではなくても、維持していく力は僕らのネットワークにはある。その輪が少しずつ芽生えてきたので、ありがたいなあと思います。

●出口 一参加者ではなしに、こちらの趣旨を理解して参画者になってもらいたいですよね。みんなが、企画段階から自分が主催者であり主役なんやという意識を持てば、準備から後片付けまでスムーズですし、何より、共に行動するからこそイベントの趣旨が本当に理解していただけるはずですよ。

例えばあるイベントではステージに上がった人に抽選会の景品を手渡ししてもらい、参画者の一人であることを意識してもらえるよう工夫しました。こういう形で人を増やしていくことが大切かなあと。

●田中 そうですね。僕らもやっていくには地元の人達の協力が必要なんです。温泉場に呑みに行って、出会った人と仲良くなって、そこから人を紹介してもらえたり。今年の祭りは若い子らの団体が一生懸命やってくれたんですよ。やはり僕らだけの力ではできません。今まで4回続けたので、「来年はどこでやるんや?」とか「やるんやったら出てやるからね」と言ってくれる人も増えましたね。一人でも二人でも応援してくれる人がおれば一緒にやりたいなあっていう思いが僕にもメンバーにも伝わります。

毎年同じ場所でやるとすごく楽なんでしょうけど、一つの行政区にこだわらなかつたからこそ、こんな風にいろんな人と出会い繋がることが出来た気がします。



▲おったからまつり 粟津おっしょべ太鼓

自然にも人にも
優しい平和の
種まきを



▲収穫後次の作付け準備



▲“笑顔でエコ・どんどこドン!”に参加

人手、財源をどうするか

●出口 (いろいろな人と出会い繋がる事が出来たという田中さんの言葉にうなずきながら) 私達は年間4回会報を出して、現場に出来ない会員にも活動内容を知ってもらっています。会員には自分のできる範囲で活動に参加してもらっています。

ですが、イベントに実行委員として7~8人が集まりますが、それだと実は足りない。そこで過去のイベントのアンケートを見ると、毎回2~3人「時間の都合がつけば」と書いてくれる人がいますから、そんな方に実行委員に加わってもらっています。限られた枠の中で物事を考えずに、常に回りにいる人に目を向けて声をかけ、力を貸していただいて、より良いもの、大きいものを作って行く。

「僕はイベント屋さんになるのか?」という声もできますが、そうではない。新しい人と知り合えて、その人が応援してくださるのなら、チャンスを逃すことはないと思います。参加者アンケートでも50%以上の人が「来年もやってほしい」と回答しています。ただ財源の裏付けなしではイベントはやれません。今までは助成金を活用しましたが、そろそろ“自分たち独自の財源を”との声も出て、会員と話し合っています。

●田中 (チャンスを逃すことはない、に同意しながら) 僕らの場合、粟津温泉の祭りに実行委員の友達が遊びに来てくれて、当日手伝ってもらった上に「事務局やります」と言ってもらえました。助かっています。

●出口 私達には企画の段階で自主的に得意分野をやると言ってくれる人ができました。発足当初から七転八倒ありましたが、今は「一人に負担をかけ過ぎてはいいいものができるわけがない」という助け合いの意識ができています。こういう自主性の芽は嬉しいです。

広報の悩み

●出口 広報が一番頭が痛いところです。フリーペーパーのイベントの欄や新聞の取材を活用し、チラシやポスターの配布はもちろん、ラジオやテレビに出ることも意識的にやっています。お金のかからないところは全部やってみます。それでも足りないとお叱りの言葉をうけることもあるのだけど(笑)。

おったから塾は地域を越えて集まる繋がりが素晴



▲'08加賀四湯博おたからまつり ポスター

らしいと思います。四つの温泉が、共に広めていこうとする動きがいいですね。

●田中 片方では自分の町を考えるけど、もう片方では南加賀地域と広く捉えて、一つの小さな故郷を思いながらも、広域的な視野に立って地域のブランド力を出していこうと。広報面でもそのバランスは大事にしたいです。

活動の原動力は『出会い』

●田中 このNPOを立ち上げて、いろんな方と出会えました。沢山の方と出会えたことが、手前味噌ですが、自分の『おたから(お宝)』です。それを次の世代の人にも体験してもらいたいと思います。

●出口 自分は頭の固いところがあるのですが、活動によって出会いがあり、ネットワークができました。人はそれぞれ発想や物の見方・考え方が違うので、それを聞いて取り入れることで、前より多面的に物事を見ることが出来るようになったことが、私にとって最大の成果であり、原動力かと思います。

団体 PROFILE



出口 威(でぐち たけし)さん
NPO法人 おとぎの杜理事長

●平成16年12月NPO法人認証
里山の大切さを啓発し、環境保全に関する事業を行い、子供の健全育成を図り、あわせて、地域の活性化とコミュニケーションづくりに寄与することを目的とし立ち上げられた。代表の出口さんはJR西日本を

定年退職し、求職活動中に「創業支援実践研修・仕事おこし講座」を受講。この3ヶ月の研修でNPOのしくみを知り、NPOを立ち上げ、仕事おこしをすることを思い立つ。活動を始めてから野良仕事を覚え、仲間とともに現在は竹林整備で竹炭製作、休耕田での家庭菜園づくりと収穫祭。「金沢ゆめまちづくり活動支援事業」にエントリーするなど、多岐にわたり活動中。

お問い合わせ

石川県金沢市南新保町八41番地4
TEL 076-237-5773
E-mail d-t-r-s@mail.bbexcite.jp



▲おたからまつり 片山津獅子舞

団体 PROFILE



田中 和義(たなか かずよし)さん
NPO法人

加賀白山おたから塾 理事長

●平成20年9月NPO法人認証

南加賀地域の住民を中心とした
県民に対して、この地域に伝わり、
守られてきた「おたから(お宝)」
を探求し、学び、表現する活動、
及び南加賀地域の文化の振興、

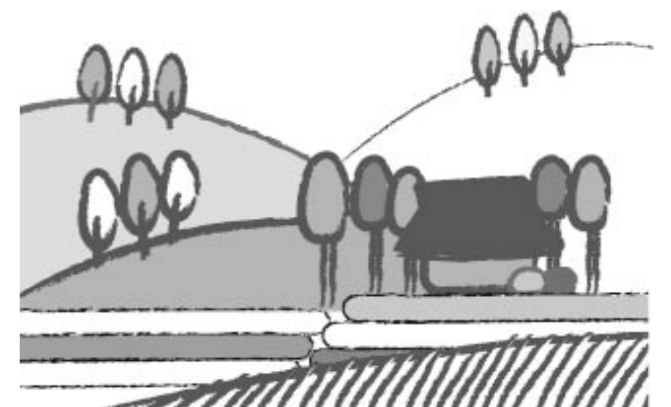
並びにこれらに関する情報発信を行うことにより、誇りあるまちづくりの創造・推進に寄与することを目的に立ち上げられた。

『加賀白山おたからまつり』とは風土体感型の芸能祭です。今年は鶴来地区の他、10月5日に片山津温泉でも「四湯博おたからまつり」を実施。山代、山中、粟津温泉に続いて四回目。

“おたから塾 塾長ブログ”も随時更新中。

お問い合わせ

石川県加賀市篠原町4 6
TEL 0761-74-3404 FAX 0761-75-3477
<http://ottakara.com/geno.html>
<http://blog.livedoor.jp/ottakara2008/>



ココプロジェクト

代表者 飯山 智也
E-mail kokoproject@yahoo.co.jp

「能登(ココ)の心(ココロ)をつなげたい」

ココプロジェクトは、「能登の心をつなげたい」を合言葉に、人との関わりの中から新たな発見とともに、自ら変わり輝くこと、そして能登の良さを知り新しい形で発信しようとする団体です。自分自身が、ここに住んでいることが誇りに思えるよう、また、小さな成功体験の積み重ねから自分を含めて多くの人を好きになれるよう、そしてより多くの人に「能登に住みたい」と思ってもらえるようにする事が目的です。

現在、その目的の元にいろんな業種、能力の人が集まっています。平成20年11月末で、20代を中心として約40名がメンバーとして活動しています。最初は6人から始まったココプロジェクト。その6人の想いを今につなげ、未来に向ける。これまで、そしてこれからのつながりの中でメンバーはもちろん、ココプロジェクトに関わった人たちの間にもその想いが大きく膨らんでいます。

そのメンバーの想いが一つの形となってあらわれたのが、平成20年4月25日に行われた夢宵音楽会です。メンバーが知恵を出し合い、七尾市の山の寺寺院群のひとつである宝幢寺で音楽イベントを行いました。そこで200人を超える観客を雰囲気で見守り、トークでなごませる。演奏者と私たちで作り上げた癒しの空間によって、能登の良さを感じ取ろうというメッセージを伝えることができたのではないかと考えています。

ココプロジェクトの名称の由来

能登を紹介する際にメンバーがとった行動を元に名前をつけました。

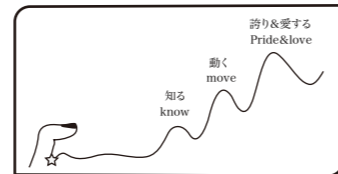


左手の親指を立てて曲げてみましょう。
おや?そう、能登半島です。
これで、ココ(能登)を誰にでも紹介できますね。

活動は、音楽イベントだけではなく、若い人達に能登の歴史を楽しく学べる機会を設けたり、地域の良さを紹介する能登旨味フェスタの一貫として、人と人そして人と能登の自然とのふれあいを凝縮させたツアー「あつふるはんでいんぐ(りんご狩り)」を企画、運営しました。

以上のような活動を行っているココプロジェクト。「隣の芝生は青い」ということわざがありますが、現代にあったPR方法を考えつつ、「能登の芝生はもっと青いぞ～」というPRをこれからどんどんしていければと思っています。

ココプロロゴ▶



※ココプロに関わった一人一人が、知って、自分で動いて、誇り&愛するという段階を踏み成長していく想いをイメージしてメンバーが作りしました

子育てサークルにはお

TEL 076-243-7012(アキヤ)
E-mail kayadesaru1122@yahoo.co.jp



▶親子でジャズ

が楽しく交流できるように「和菓子教室」、「親子でジャズ」、「やさしい日本語講座」、「絵本の読み聞かせ会」などのイベントもやってきました。

活動内容

8月と2月を除き、毎月第三水曜日の午前10時から11時半まで、駅西福祉健康センターで0歳から3歳までの親子を対象に、『ママにはお教室』を開いています。フリートーク、手遊び、絵本、季節の工作、日本の行事紹介など毎月違うテーマで楽しいひとときを過ごしています。

今まで中国と台湾出身のママを対象にしていたのですが、今年4月からは韓国、オーストラリア、フィリピン、日本など各国のママたちにも参加していただいています。ぜひ皆さんお気軽に遊びに来て下さい。

林 冠因

設立の経緯

「子育てサークルにはお」は、はじめ2人の日本人ママと1人の台湾人ママが子育てと家事に忙しい中、「何かをやりたい!」という強い気持ちにより、平成16年にサークルを作って金沢市国際交流財団に登録しました。

その後金沢市国際交流祭りに参加し、台湾ネギパイの販売を通して台湾の食文化を知ってもらう機会を作りました。その時に駅西福祉健康センターの保健師さんから、金沢市在住の外国人ママの悩みや不安の解消と情報交換のために、「第一回 外国人パパ・ママ教室」を開催したいと要請があり、その協力を承諾しました。「子育てサークルにはお」は、翌年3月から現在に至るまで「外国人パパ・ママ教室」のお手伝いをしています。またその参加者の受け皿として、私たちは平成17年11月から毎月一回、駅西福祉健康センターで『ママにはお教室』を開いています。また日本人親子と外国人親子



▶金沢国際交流まつり

新刊・おすすめ図書

紹介



コーナー

石川県NPO活動支援センターでは、NPO・ボランティアに関する様々な書籍を閲覧・貸出しています。



「社会を変える」を仕事にする

著者 : 駒崎 弘樹
発行 : 英治出版
定価 : 1,470円
発行年月: 2007年11月

元ITベンチャー経営者が、東京の下町で始めた「病児保育サービス」が全国に拡大。「自分たちの街を変える」それが「世の中を変える」ことにつながった! 汗と涙と笑いにあふれた、感動の社会変革リアル・ストーリー。

わかりやすい文体と、NPOの経営事例による分析でNPOの経営に携わる人、ボランティアを目指す人はもとより、新たにNPOを起業する人たちにも最適の指導書だ。NPOの不幸から抜け出すために、ぜひお読みいただきたい一冊である。



日本のNPOはなぜ不幸なのか?

著者 : 市村 浩一郎
発行 : ダイヤモンド社
定価 : 1,680円
発行年月: 2008年9月



こんな募金箱に寄付してはいけない

著者 : 筑波 君枝
発行 : 青春出版社
定価 : 767円
発行年月: 2008年4月

『ボランティアは偽善に見えてしまう』この本では、そんな疑問を掘り下げてみた。他にも、誰でも簡単にできることにはどんなことがある?簡単にできることに何か落とし穴は?いざボランティアをしようと思ったら、どんなスタンスで関わればいいのか?といった内容を読み物風にわかりやすくまとめている。

誰もが利用できる地図情報・地図システム

平成20年4月1日の測量法の改正により、基盤地図情報を電子データとして誰もが自由にダウンロードして使うことができるようになりました。

「私どもは、国土院より公開される基盤地図情報を基に市民レベルでの活用法を考案すると同時に、災害対応訓練等の具体的な活用方途の検討や実践の基盤として、『基盤地図情報活用研究会 (Institute for Spatial Information Infrastructure / ISII)』を発足しました。ISIIの基盤地図情報は実際に災害が起こった時、地理情報を使うことで災害を減らすために開発したシステムです」と語るのは基盤地図情報活用研究会の沢野伸浩さん。

阪神淡路大震災以降に、地理情報を減災利用できるようにと文部科学省からの依頼で進められました。平成15年からチームに入り研究を続けていたところ平成16年に新潟中越地震が起こり、システムを求める声の方が大きくなってきました。そこで沢野さんは、「情報の書き込みが自由にでき、発信でき、情報公開する」だけでなく、災害が起きたとき実際に動くボランティアの方々はもちろん、**沢山の人にってもらい役に立って欲しい**という思いから今以上に**簡単にわかりやすく、使いやすく**という研究を進めています。



▲基盤地図情報の書き込み方法を説明してくれる沢野先生

従来までの地理情報システム (GIS) やインターネットで地図情報を公開するためのWebGISはシステム自体が大変高価であり、また、特殊な運用技術力が要求されるなどの点から、地域で活動する防災や福祉などの団体にとって、いわば「高嶺の花」とでも

言うべき存在であったことは否めません。

高まる需要の中で

「企業のバックアップもあり、県内の優秀な学生プログラマーにも活躍の場を作ることできている」と話す一方で沢野さんは「この活用研究会は予想を超える大きな規模で始まってしまい、仕事の受注があっても運転資金の確保に難航しているのが現状。NPOも一般の企業のように社会の信用を持った組織として銀行との付き合いができるようになってほしいんです。このままでは黒字倒産してしまいます」と苦笑いする。

安全・安心に関するものに責任を持って

新潟中越沖地震では、倒壊家屋の情報や介護が必要な方々の所在とともにカルテのようなものも書き込める仕組みを作り使用されました。また、企業とタイアップして社会福祉関連 (例えば、施設の入り口のスロープ標示やバリアフリー対応のトイレ標示) や消火栓、AEDのマップ、また携帯電話からの入力や写真の埋め込みが出来る仕組みも開発しています。

自治体や国内外の企業からも問い合わせがあり反応は非常にいいようで沢野さんは「できる限り早く世界的にデータを発信していきたい」と今後の展望を語ってくれました。

■基盤地図情報活用研究会では「みんなでつくる電子国土版バリアフリーマップ」を公開 (<http://geo-quick.jp/b-free/>)

- (1) 多様な施設のバリアフリー情報を簡単な操作で地図上に書き込み、閲覧することができること。
- (2) 掲載された情報を様々な条件を使って検索すること。
- (3) 特に地図上の距離検索により、日本全国どこでも最寄りのバリアフリー情報を検索できる。

といった特徴があります。日本中の施設のバリアフリー情報が集まれば集まるほど、ますます便利に使うことができます。となりますので、皆様からの情報投稿をお待ちしております。

〒920-0267

石川県河北郡内灘町大清台302

特定非営利活動法人 基盤地図情報活用研究会

E-mail: info@jpgis.jp FAX : 020-4622-8117

シリーズ NPO 会議術 ③ 『意見を言いやすくする工夫』

川への祈り実行委員会事務局長 森山 奈美

前号では、会議のプロセスをコントロールするファシリテーターを紹介しました。今回は、このファシリテーターが身につけるべきスキルを見てみましょう。

うなずきの術

NPOの会議に参加する人たちは、お互いの意見を大切にします。会議ではより多くの意見が交わされることを重視します。会議を進行するファシリテーターの最も大きな役割は、参加者の意見を引き出すこと。

そこで、威力を発揮するのが「うなずきの術」です。そんなことでいいの？と思われるかもしれませんが、他の人がうつむいて意見を聞いているのと、誰かがちゃんと聞いているのでは、発言する方の姿勢がまったく違います。「うんうん・・・」「なるほど」と、**ファシリテーターがうなづくこと**によって、**参加者の姿勢も積極的**になります。

まとめの術

会議で多くの意見が出たら、次に進む時の方針を出すことがファシリテーターの役割です。「皆さんの意見は・・・」「議論の共通点は・・・」「少数意見で大切にすることは・・・」という形で、議論をまとめていきます。**議論の全体図を描き、次の方針を出します**。選択肢を示して合意を得るためには、単なる多数決ではなく納得できる議論がなされているということが重要です。ファシリテーターのまとめが適切ならば、**参加者の「うなずき」と「表情」**で分かります。

大切なのは「口」より「耳」

ファシリテーターは、参加者一人一人の力を引き出す存在です。NPO活動を通して、まちをもっと元気にしていくエネルギーを地域の中に育てている参加者の声に「心から耳を傾ける」姿勢が求められます。**大切なのは、口よりも耳**。ぐいぐいと活動を引っ張るリーダーとは別の立ち位置で、参加者の背中をそっと後ろから後押しするという姿勢で、NPOの会議を実現のものにしましょう。

翻訳の術

NPOには、あるミッションに賛同した人たちが集まっています。しかし、ミッションへの思いが深いゆえに、多くの意見があり、中には意見が対立するときもあります。表面上の意見の違いの下には、案外と共通する思いがあるということが少なくありません。

ファシリテーターは、議論を生むために参加者の意見の本質を明らかにする「翻訳の術」を使いこなしましょう。「分かりやすくいうと、こういうことですか?」「こう考える理由は?」など、**参加者が本当に言いたいことの手助け**をします。

また、意見を言いやすくするために、まずはペアになって意見交換をする、カードに意見を書いて整理する・・・等、意見の出し方の方法をいくつか持っておくことも大事です。

さらに、ファシリテーショングラフィックで、議論の全体像を示すというスキルも大切です。ファシリテーショングラフィックについては、次号で紹介いたします。

ファシリテーターの心得

- 一人一人の個性や価値観を尊重する
- 共同作業による集団創造性を引き出す
- からだもこころも整え、本質を見る
- 参加者の主体的なかかわりを促す

INFORMATION

県からのお知らせ

『NPO Day』のお知らせ

県民を対象に、NPO活動やボランティア活動などの社会貢献活動への積極的な参加を促進し、地域社会の活性化を図ることを目的に開催しています。

●NPOプチセミナー

NPOの活動実践例を分野ごとに紹介し、参加者同士の交流の機会を提供することにより、興味のある分野での市民活動参加のきっかけ・仲間づくりを目指します。

- 開催時間 18:30～21:00
- 定員 20名(参加費/無料)
- 内容 「環境」・・・平成21年2月25日(水)
講師/成田 裕 氏(ガイア自然学校)

●NPOお役立ちセミナー

NPOの立ち上げ・運営に関する基礎知識を実践的に習得する場を提供します。

- 開催時間 18:30～21:00
- 定員 各セミナー20名(参加費/無料)
- 内容 「NPOの労務・法務について」
・・・平成21年1月28日(水)
「活動資金の調達について」
・・・平成21年3月18日(水)

●NPOよろずサロン

NPOに関する具体的な個別相談に対応するため、「NPOよろずサロン」を開設します。

- 開催時期 平成21年3月25日まで
(毎週水曜日 18:30～21:00)
※プチセミナー、お役立ちセミナー
開催日を除きます。
- 相談料・・・無料

各開催場所

石川県NPO活動支援センター

〒920-0962 金沢市広坂2-1-1
広坂庁舎4階
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559

お申し込み お問い合わせ

NPO法人いしかわ市民活動ネットワーク キングセンター(i-ねっと)

〒920-0865 金沢市長町1-3-40
TEL 076-232-6673 FAX 076-232-6674
E-mail mail@ishikawanpo-net.jp

『NPOマッチングボード』 のお知らせ

NPO・ボランティア団体のスタッフやボランティアさんの募集情報を掲載しませんか。

石川県NPO活動支援センターの掲示板及びホームページに掲載することにより、県民の皆様へNPO・ボランティア活動などの社会貢献に積極的な参加を促進しています。

※掲載は無料です。

お申し込み お問い合わせ

石川県NPO活動支援センター

担当:長谷川
〒920-0962 金沢市広坂2-1-1
広坂庁舎4階
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559
URL <http://www.ishikawa-npo.jp/riyou-matchingu.htm>

助成金ニュース

セブン・イレブンみどりの基金

●助成対象事業及び助成額

環境市民活動助成

・活動助成(総額1億円)
自然環境保護など、市民が主体となっている環境活動に助成

・NPO法人格取得助成(上限50万円)
組織の基盤強化を目的に法人格を取得し、活動を行っていく団体に助成

・モデル事業助成(上限200万円)
3年で一つの事業を確立・完成させ、他の団体にその成果と手法が普及できる事業に助成

・自立事業助成(上限440万円)
助成期間内に事務所費・人件費などの財政基盤を安定的に確保できる事業を構築し、自立した活動ができる環境NPOを目指す団体に助成

地域美化活動助成

・緑化植花活動助成(総額1000万円)
公共の場所で市民が主体となって企画し、継続して行っている緑や花を植える活動に助成

・地域清掃活動助成(上限20万円)
公共の場所で市民が主体となって企画し、継続して行っている清掃活動に助成

●助成対象団体

市民が主体となって活動する団体。
ただし、モデル事業助成と自立事業助成はNPO法人格が必要。

●応募受付期間 平成21年1月31日まで

お申し込み お問い合わせ

セブン・イレブン緑の基金/助成担当

〒102-8455 東京都千代田区二番町8-8
TEL 03-6238-3872 FAX 03-3261-2513
URL:<http://www.7midori.org>

スポーツエイド助成

●助成対象事業

定期的なスポーツ愛好者の増加につながる事業(スポーツ大会、スポーツ教室など)の運営に必要な経費の一部を助成。

あまりスポーツが得意でない子ども達に、より多くのスポーツを気軽に体験させ、興味を抱かせるための取り組みへの助成である「ジュニアきっかけづくり助成」、さらに子ども達を対象とした通年実施の「スポーツプログラム事業」、学校の休みの期間を利用して実施する「スポーツキャンプ事業」等に重点を置き、スポーツの習慣化やスポーツ愛好者の拡大を図っています。

スポーツエイド事業

- ・ジュニアきっかけづくり助成(上限30万円)
- ・地域密着、自立支援助成(上限100万円)
- ・スポーツプログラム事業助成(上限200万円)
- ・スポーツ用具・備品配備助成

ウォータースポーツエイド

- ・ジュニアきっかけづくり助成(上限50万円)
- ・拠点づくり・自立支援助成
(上限 大会等200万円、機材等500万円)
- ・スポーツ用具・備品配備助成

●助成対象団体

詳しくはホームページをご覧ください。

●応募受付期間 平成21年1月31日まで

お申し込み お問い合わせ

笹川スポーツ財団 業務部

スポーツエイドチーム

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16
Tel:03-3580-5854 Fax:03-3580-5968
Email:aid@ssf.or.jp
URL:<http://www.ssf.or.jp/>

社会貢献基金助成

●助成対象事業

(1)研究助成事業
次のテーマの趣旨に合致する事業
テーマ:「婚礼(結婚式)、葬儀(お葬式)など儀式文化の調査研究」

(2)高齢者福祉事業
心身の機能が低下した高齢者などを対象に、一般的な在宅福祉対策で対応困難な分野や従来の施策等では十分福祉の推進が図られていない分野での支援活動。または、ニーズの高さ等地域の実情に照らし必要と認められる高齢者の自己実現・自己表現を図るための支援活動や福祉活動。

(3)障害者福祉事業
重複障害、難病に起因する障害を持った障害児・者を対象に、一般的な在宅福祉対策では対応困難な分野や従来の諸施策等では十分福祉の推進が図られていない分野での支援活動。または、ニーズの高さ等地域の実情に照らし必要

と認められる障害 児・者の自己表現・自己実現を図るための支援活動や福祉活動。

(4)児童福祉事業
保護者等が死亡又は著しい後遺障害のため働けなくなった家庭の児童、引きこもり、不登校の児童を対象とした支援・慰問活動、その他児童の健全育成等に関するボランティア活動。

(5)環境・文化財保全事業
日本国内における植林、野生生物保護、公害防止等の活動、地域の住民の参加を経て行う文化財保護活動、リサイクル活動その他地域住民にとって重要な意義を有する実践活動。

(6)国際協力・交流事業
開発途上地域、紛争地、被災地における、医療活動、食料・物資援助、教材・学校建設など人材育成を目的とした国際協力・支援活動。国際交流を目的とする事業(懇親会・パーティー等は対象となりません。)

●助成額
1件当たりの助成額上限は2,000千円とします。但し、研究助成事業においては、1,000千円を上限とします。

●助成対象団体
非営利組織(財団法人、社団法人、社会福祉法人、NPO法人、その他任意団体、市民ボランティアグループも対象となります。)又は大学、研究機関。

●応募受付期間 平成21年2月末日まで

お申し込み お問い合わせ

社団法人全日本冠婚葬祭互助協会

社会貢献基金 運営事務局
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-6-2
第2秋山ビル7F
Tel 03-3433-4415 Fax 03-3435-0880
URL:<http://www.zengokyo.or.jp/>



●本誌に関するご意見、ご要望をお寄せください。お寄せいただいたご意見は、制作に生かすほか、本誌に掲載してまいりたいと考えています

石川県NPO活動支援センター

〒920-0962 金沢市広坂2-1-1
石川県広坂庁舎 4階
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559

URL <http://www.ishikawa-npo.jp>
E-mail npo@pref.ishikawa.lg.jp



石川県内でボランティア活動、NPO 活動に参加し、活躍している学生のみなさんの声を集めて紹介するコーナー『ジュニア VOICE』

第3回目となる今回は、大学生を中心に障害を持つ人とそのご家族に対し、活動を行っている「ミックスジュース100%」代表の増田 昭彦さんにお話をうかがいました。

友達から友達へつながっていくボランティア

月に一回はメンバーさんとお出かけ。

—『ミックスジュース100%』の活動内容について教えてください。

増田さん●MJ(=ミックスジュース100%の略)は、知的障害のある方(メンバーさん)やその親御さんと一緒にお出かけしたり、キャンプをしたりというボランティア活動をしています。具体的には、月に1回“お出かけ企画”というのを立てます。MJとメンバーさんをマッチングして料理教室、ボーリング、カラオケ、体育館を借りてスポーツしたり。メンバーさんの中には成人されている方もおいでになるので、去年は夜の片町へ繰り出して飲み会したり。いろいろです(笑)



▲'08.11 上旬/瀬女高原キャンプ コテージ前にて



▲手作り楽器で演奏会

—増田さんがMJに入るきっかけは何だったんですか?

増田さん●金城大学で福祉の勉強をしていて、ちょうど学校の掲示板でボランティア募集が出ていたのと、メンバーさんの中に小学校の同級生がいてその親御

さんからも誘われていたこともあり参加してみることにしました。確か、その時は映画鑑賞の企画でした。僕自身は金城短大からの編入で、金城大学に入ってからMJの活動に参加するようになりました。

メンバーさんも楽しんで、自分達も楽しめる企画を立てる。

—今まで企画したイベントで“苦労した”ということはあるですか?

増田さん●苦労というよりは、メンバーさんに合わせた企画を考えているうちに朝の3時になってしまっただけでそのまま、朝9時集合ということがあったり。その時は辛かった～(笑)

あとは、天候に左右されないような企画にしないとイケないかな。雨が降った場合の計画変更も考えておくことが必要ですね。

毎月企画を立てて活動していますが、僕の場合はメンバーさんと一緒に毎回楽しんでしまいます。年に1回しか参加できないメンバーさんもおいでるので、そんな方にも、常連さんにも喜んでもらえるとうれしく思います。

—これからのMJに期待することはありますか?

増田さん●ボランティアの広がりというか、つながりって友達から友達につながっていくと思うんです。実際、MJというのは金城大学、金沢大学、北陸学院大学、金沢工業大学の学生で動かしていますが、僕自身は来年度から社会人になるんですが、OBとしてこれからも関わっていきたくてすし“人手が足りないから活動できない”っていうのはしたくないですね。



ミックスジュース100%代表 増田 昭彦さん

【お問い合わせ】

NPO法人地域支援センター ポレポレ
それいけ仲間たちの家
金沢市扇町11-31 TEL 076-221-8595
mj100mail@yahoo.co.jp